

Q1

インドの方にとって、受け入れ体制が整っている人気のある国・場所はどこでしょうか。また、日本が見習うべきはどのような点ですか。

A1 (カトリ氏)

インドの方々が一番多く行っている国はアメリカとヨーロッパです。近いところではタイ・シンガポールもあります。アメリカでは言葉の問題もありませんし、食事がどこでも手に入る点が便利です。一方日本は交通機関や食事はすべて日本語です。観光もほとんど日本語で、一人で来ても動きづらい点が大きなネックと言えます。

また、日本政府があまりインドで観光宣伝をしていないと思います。インドで40年前“LOVE IN TOKYO”という有名な映画がヒットし日本が流行ったことがあります。また、私も子どもの頃、日本のことを教科書で読みました。こういうことも含めてですが、いかに宣伝するかが大事です。しかも大きい都市だけでなく地方にも力を入れてほしいと思います。

Q2

日本から留学に出て行った方については、繰り返し海外留学をする傾向にありますか？

A2 (小池氏)

海外留学を経験した生徒が再度留学する確率は、しなかった生徒に比べれば高いだろうと思います。ただ、私たちとしては、帰ってきてまたすぐ戻るよりは、もう一度日本に順応してから戻ってほしい、と話しています。というのは、海外に出てその文化に順応したこと自体はとてもいいことなのですが、逆に日本文化に再適応するのが難しくなっているからです。日本文化は異質なものを受け入れない文化ですから、海外のやり方を身につけてしまった日本人は、日本人にとっては外国人みたいなもので余計許せない・・・実際、学校の規則になじめなかったりすることもあります。私たちはそこで、すぐにそこから逃げず、再度日本に適応することによってもう一つ大きな成長があるので、なるべくすぐに再留学しないように説得しているのですが、そのまますぐに出て行く生徒も10パーセントくらいはいると思います。また、外国サイドから、せっかく順応したのだから戻ってきなさいと言われるケースもあります。これもとてもいいことですが、再適応を優先し、経験を消化してから再留学したほうが実りの多いものになるだろうと思います。

Q3

日本がインド人を受け入れるのに、日本人が身につけておくべき教養や知識はどんなものが必要でしょうか？

### A3 (カトリ氏)

仏教については、長い歴史と深いつながりがありますから、知っておいていただくと思います。インドの方もたいへん関心を持っています。

また、知識というより心構えですが、インドの方々を受け入れるためには、さきほど小池さんがおっしゃったように 例えば信号は赤だけれども車が来ないから渡ってしまうような インド人の多少いい加減(自由な)ところを理解していただければと思います。

とはいえインドの方々は宗教的に敬虔ですから、食べ物には厳しいです。ちなみに私は日本に来て 22 年になります。実は、本当は禁じられているのですが私は牛肉を食べます。また、インドにいた頃にはお酒を飲んでいませんでしたが今はよく飲むようになりました。こんなに美味しいものがあるのに、一生食べずに死ぬなんてもったいなくて信じられません(笑)。一口食べて、嫌だったらやめればいいのに、と私ですら思いますが、インドの方は敬虔ですから禁じられたものは決して口にしません。ちなみに根菜を食べないのはジャイナ教の人ですが、ジャイナ教徒であることは苗字でわかるので、そういうことも少し勉強しておくのもいいかもしれません。

### Q4

海外留学経験者が、結果として多くホストファミリーとなり、受け入れ体制づくりにつながっているということはあるですか？

### A4 (小池氏)

そうなってほしいと私たちは願っていますが、プログラムの参加者は高校生ですから、ホストファミリーになれるまでかなり長い時間を必要とします。帰国して高校に戻り、卒業後大学に行って、就職して結婚して・・・ということになると、帰国した直後はそういう気持ちになっていても、時間が経つと必ずしもそうではなくなってしまいます。逆に、どういった人たちがホストになってくれているか、というと、何らかの形で外国にご縁がある方や、自分のお子さんが外国でお世話になったので、という方々が多いかなと感じています。

### Q5

インドからの訪日客を受け入れるにあたり、日本政府の要望はありますか？

### A5 (カトリ氏)

先ほども述べましたが、マレーシアやシンガポールやタイは、インドで観光宣伝に結構力を入れています。一方日本は目立たない存在です。新聞でもテレビでも、日本の観光情報を見ることは稀です。日本のツーリストオフィスはあったとしても場所が限られており、一般的にはあまり認知されていません。ところで、日本を訪れる 67000 人のうちほとんどがビジネスという実態もあります。彼らは3泊くらいですぐ帰ってしまいます。これでは経済効果になりません。インドの人々をいかに日本の地方に連れて行って、インドにない

ものを見せるかが重要だと思います。ですから、日本政府にお願いしたいのは、デリーその他の大都市だけではなく、国際線のあるすべての空港で展示会を開くとか、航空会社がやっているように地域の旅行会社を呼んでセミナーやパーティーを開催することなどです。そして、できれば日本人スタッフがヒンドゥー語で話せば、地域の旅行会社に日本を売ってもらうことができるのでは、と思います。それほど難しいことではないと思います。また、パンフレットも英語だけではなく、ヒンドゥー語や各地の言葉で作ってみてはいかがでしょうか。そうすれば各地の州府も乗り気になると思います。

#### Q6

海外でのトラブルに対して、日本の保護者はついつい過剰に反応すると聞いています。トラブルを最小限にするためにどんなことに取り組んでいますか

#### A6（小池氏）

最近の学校ではモンスターペアレントの存在が問題となっていますが、AFSでも保護者の要求が高すぎて苦勞することもないわけではありません。「派遣先で自分の子どもが正当に扱われなかったために不適應になった」などと、「周りの責任」として強く主張される場合などは苦勞します。事前に家庭を訪問して、保護者にもプログラムがどういう仕組みで成り立っているか、対応できる限度と本人の責任と、参加規程にのっとり行動しない場合は早期帰国もあるのだということも説明はしています。

また、時に受け入れ地域のボランティアから生徒の問題行動（飲酒など）についてクレームが来ても、子供が親に否定することでトラブルになる（数は多くない）こともあります。

いずれにしても対応策としては、事前に家庭訪問で保護者とも会ってお話をするということでしょうか。その結果どう考えてもトラブルが起きそうな場合は選考しないこともあります。

#### Q7

逆に多くの日本人がインドに行き、インドの人々と交流すれば、もっと日本に興味を持ってもらえると思います。どのような方法がいいと思いますか？

#### A7（カトリ氏）

ご存知の通り、日本からインドへの観光客は特に10月から3月にかけてかなりの数にのぼります。仏跡ツアーなどもかなり存在しますが、いずれにせよ短期間観光するだけです。

「交流」をするためには、インドに行ってセミナーを開くとか、キャンプをするとか、ユースホステルを泊まり歩くとか、ホームステイをするとか、一般の人と触れ合う機会を作らないと、お互い興味を持つということにはならないでしょう。

ちなみに、観光だけなら日本人観光客はもっと増えるでしょう。インド政府観光局、大使館は億単位で観光宣伝にお金を使っています。パンフレットの作成や補助金・宣伝にも

取り組んでいます。また、政府として料金が明確なプリペイドタクシーを創設したり、観光客に対応する警察を設置したりもしています。

Q8

働き方が柔軟で心の広い日本人を育てていくのがこれからの重要な課題だと感じました。今の国の政策や企業に対して提言はありますか？

A8（小池氏）

世界中働き方はさまざまですが、一般的傾向からすると日本は労働時間が長くて休暇が取りにくいと感じます。そういう意味で、生活にゆとりがないと留学生が感じるということも多々あると思います。外国人のスピーチコンテストで話題になることもあり、自分の国ならもっと家族を大切に家族と楽しむのに、日本は違うという内容をよく聞くことがあります。それはやはり、なかなか休みもとれず、残業があって帰宅が遅い 労働条件・環境が厳しいからでしょう。逆に、わたしたち日本人がそれを美徳としているところがあることも原因のひとつだと思います。一般市民が、自分たちはこんなに勤勉で美しいんだと思っている限りは、もっと休みを取ろうという声は大きくなるのではないかと私自身は感じていて、一方的に国や企業だけを責めることはできないと思います。それでも、人生や日常生活をもっと楽しんでいいのではないかと、ということを経験者や保護者を通じて感じることはよくあります。

Q9

インドの皆さんに対して、違いを認め合う前提での相互理解という観点で、日本の食文化をどのようにご理解いただければよいと思いますか？

A9（カトリ氏）

その点は、それほど難しいと思っていません。私の両親は妹を連れて3回来日しました。3ヶ月ほど日本で暮らしましたが、父は日本の鍋ものが大好きになりました。彼らから見ると日本の料理はとてもヘルシーです。また、私はインドにいたときには、生魚を食べるなどとは想像もできませんでした。日本で初めてタコを食べてびっくりした記憶があります。われわれから見たら化け物みたい（笑）です。でも、食べてみたらとても美味しく、今は大好きです。そして、日本もインドもお米を食べますから、日本料理がダメということはないでしょう。

逆に、皆さんからすれば理解し難いと思いますが、インドでは一日三食カレーを食べています。しかし彼らは日本へ来てお寿司やお刺身を初めて食べてみて「こういうものなんだ」と違いを理解します。彼らは来るまででは日本を知らなただけです。国によって食べ物は違いますし、日本人には口にすることを禁じられた食べ物もありません。インド人から見ればうらやましいことですが、それこそが違い、という理解になると思います。

Q10

私は3人家族でマンション暮らしです。同じマンションや地域の方のサポートがあれば留学生を受け入れてみたいと思っているのですが。

A10 (小池氏)

マンションで留学生を受け入れている方ももちろんいらっしゃいます。住宅事情からいってごく普通のことです。また、確かに留学生は地域全体でサポートしホストするものです。しかし、原則的にファミリーは一つと決めていただいています。お父さん・お母さんという特別な存在 家族として帰属することがとても大事だからです。ですから、いきなり複数のホストを行ったり来たり、ということにはなりません。生徒もなじむまでにはストレスを感じるので、一つのファミリーで受け入れることが重要です。

それでも、一年間が長すぎて都合が悪い場合は、親しい友人どうしで前半後半それぞれ半年ずつホストする場合がありますし、お盆に田舎へ帰省するときだけボランティアの家庭で短期間預かるということもしています。このように、近くにサポートしてくれる友人がいれば、協力しながらというケースも増えています。

Q11

インド人観光客に対しては、通訳案内士・ガイドはどのような資質やスキルが必要でしょうか？

A11 (カトリ氏)

まず、インド人団体の中に家族連れやカップルで女性がいる場合は、ガイドは女性がいいと思います。お風呂やトイレのことなど、インド人女性は男性ガイドに聞きづらいからです。また、すべてのインド人が英語がうまいわけではありませんから、説明の際にはゆっくり話してほしいと思います。

私はたまにガイド役をしますが、漢字はインド人から見ると面倒くさい、理解しがたい文字にうつります。しかし、字の成り立ちなどを詳しく説明すると関心をもってくれ、漢字のすばらしさを理解してくれます。また、仏教建築の意味も細かく説明すると興味を持ってくれます。日本の文化を彼らにわかるように、そして詳しく説明できる資質が求められると思います。